

JHFREPORT



Redbull X-ALPS 2023より。撮影：江本悠滋（10ページから江本さんの報告を掲載）

気象のエキスパート、内藤邦裕さんがFAI賞を受賞

今年も9月20日の「空の日」に合わせて、日本航空協会表彰式が行われ、「航空宇宙に関する文化・科学技術・事業ならびにスポーツなどの発展に著しく寄与した方、またはグループ」に航空亀齡賞、航空功績賞、空の夢賞、航空スポーツ賞が授与されました。空の夢賞のひとつを受賞したのは、人力プロペラ機が登場したNHK連続テレビ小説「舞いあがれ！」の制作チーム。航空宇宙に対する夢や希望を広く社会に与えたことが評価されました。

表彰式に併催の国際航空連盟 (FAI) 賞伝達式では、三つの賞の授与が伝達されました。

ポールティサンディエディプロマ

航空一般、特に航空スポーツ発展の

ために献身的努力を傾注し、団体組織等で指導的役割を果たし、その業績が顕著である個人に授与される賞です。

今回の受賞者は3名。日本気球連盟の委員・理事を務め、日本の気球飛行の普及振興に貢献し後進の育成にも努めてこられた廣田和弘さん。日本滑空協会理事などを務め、わが国の滑空スポーツの普及振興に貢献、多くの操縦士を育ててこられた鈴木康一さん。そして、FAI国際模型航空委員会の日本代表委員、日本模型航空連盟理事長を務め、日本の模型航空スポーツの普及振興に貢献された廣瀬春信さん。

CIAMレジェンドメダル

過去にFAI模型航空世界チャンピオンのタイトルを3回以上獲得した個人

に授与される賞で、橋本学さんと伊藤寛規さんが受賞。

FAIエアスポーツメダル

航空スポーツに関連した委員会業務、競技会運営、若年層の教育訓練等に顕著な功績や貢献があった個人または団体に贈られる賞。

受賞者は2名。1993年から国内で開催された熱気球やハンググライディング・パラグライディングの国際競技会等で気象チームのチーフを務めてこられた内藤邦裕さん。宮城県航空協会理事長等を務めわが国の滑空スポーツの普及振興、後進育成に貢献された木村義彦さん。

受賞された皆さま、おめでとうございます。

スポーツくじ



JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

JHFフライヤー宣言

1. 自分の意志と責任でフライトします。
2. 自己の健康管理を行い、健全なフライトをします。
3. 社会のルールを守り、第三者に迷惑をかけません。
4. 自然を大切にします。

写真で空の仲間を増やそう！

第10回JHFハンググライダー・パラグライダーフォトコンテスト 入選作発表

JHFフォトコンテストは、ハンググライダーやパラグライダーの写真を多くの人に見てもらうことによってこのスポーツの普及に繋げることを目的として、今年、第10回を迎えました。

前回から「ハンググライダー、パラグライダーの楽しさ、美しさを表現した写真作品」というテーマに、「ハンググライダー、パラグライダーが中心となった写真で、一般の人の目を引き

つける写真」というテーマも加えました。そのためか前回に続き、応募総数202作品のうち約半数が会員外の方の作品でした。皆さま、ご応募ありがとうございます。

今回もフォトグラファーの嘉納愛夏さん、山本直洋さん、安田英二郎JHF会長が厳正な審査を行いました。その結果、第10回という節目の今回、残念ながら最優秀賞、優秀賞該当作品は無

し。5名の方の6作品が入選となりました。Rick Nevesさん、尾崎肇さん、斉藤憲弘さん、中村正哉さん、山口弘さん、入選おめでとうございます！

なお、入選作品ならびに応募作品の中の季節感のある優れた写真を採用して2024年JHFカレンダーを作ります。カレンダーの詳細はこのJHFレポート8ページまたはJHFウェブサイトをご覧ください。

審査員総評

嘉納愛夏

記念すべき第10回フォトコンテストですが、最優秀・優秀賞が空席という苦渋の決断となりました。ただ、フライヤーではない方からの応募の割合が多く、一般の方からの関心を得られているのかな、と窺えました。

みなさんご存知の通り、写真というのはこの世に存在する物事の一瞬を切り取って見せるものです。

魅せるもの、と言い替えてもいいと思います。

それは時に人間の一生を左右することもあるほど影響力のある芸術なのです。JHFフォトコンの場合は「空を飛んでみたい」と心が動くような写真が求められていると思います。

そのためには「はじめから狙って撮る」「狙ってないけどその状況下に偶然居合わせ一瞬の判断で狙って撮る」ことが必要です。ダイナミックな写真でも、ほんわかするアットホームな写真でも、それは同じ。

誰でも気軽にカメラやスマホを持っている現代では、ほとんどの人が漫然と被写体にレンズを向けますが、作品にしたいと思ったら、そんなことを思い出してもらいたいと思います。

今回の入選作はそういった意味で「惜しい」作品たちです。

ハンググライダー、パラグライダーは偶然性・言ってみれば運に左右される要素が大きい被写体なので難しいと思いますが、またぜひ「狙って」撮っていただきたいです。幸運を祈ります！



山本直洋

JHFフォトコンテストも第10回を迎えることができました。

皆様のご応募、本当にありがとうございます。フォトコンテストがはじまった時から審査員をさせていただいており、毎年どんな作品が見られるか楽しみにしております。

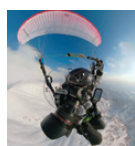
今回、一通り応募作品を見させていただいて、最初に一番印象に残ったのは、斉藤さんの「炎の富士を飛ぶ」でした。

本当に富士山が燃えているかのような強烈なヴィジュアルです。望遠でこの瞬間を捉えるだけでも大変だと思いますが、さらにそこに飛んでいるパラグライダーが映っている。その時点でかなり希少な一枚となっているのですが、いかんせんパラグライダーの存在感が小さすぎる、という理由でJHFフォトコンテストとしては優秀賞として選ぶに至りませんでした。

ほかにも、夕陽をバックに撮影した美しい作品がいくつかありましたが、どれもあと一歩優秀賞に届きませんでした。

今回、残念ながら優秀賞、最優秀賞該当者無し、という結果にはなりましたが、けして作品のクオリティが低いというわけではありません。すばらしい作品も多かったのですが、他と比べて一歩抜きん出ている、そしてJHFフォトコンテストの趣旨と合っている、という作品がなかったため、このような結果となりました。

次回はぜひ美しいだけではなく、他



と差別化できるような作品が増えることを期待しております。

安田英二郎

フォトコンテストは、JHFが開催する以上はハンググライダーやパラグライダーの普及振興に役立つものであり、同時に、写真コンテストなので写真としての完成度も求められます。今年は残念ながら最優秀・優秀賞は該当なしとなりましたが、場所や気象等の撮影タイミングをつかんだ作品が入選しました。風景を含めた写真作品としての完成度から見ると、どうしても写真に写るグライダーの大きさが小さめの作品が増えがちです。もっと大きくグライダーが写っていて、それを見た一般の方が、すごい、きれい、楽しそう、やってみたいと感じるような写真で、そのうえ写真としての完成度が高い作品が増えるとベストです。また、子供やペットを画面に入れるとそれだけで可愛いか楽しいという要素が写真に加わるので魅力が増えます。

入選を目指した作品以外に、カレンダー向けに応募されたと思われる作品も見られますが、これはその月や季節を象徴するテーマを写しこんだうえでグライダーの魅力を伝えることが大切です。ハンググライダーは応募数がないのでいい作品をお待ちしています。

現在は印刷しなくても写真データで応募できますので、いい写真が撮れたら保存しておいて翌年の夏休みに忘れずに応募してください。



斉藤憲弘「炎の富士を飛ぶ」

撮影地：土浦市霞ヶ浦湖畔の高台



Rick Neves 「Between the Sun and the Moon」

撮影地：Budapest, Hungary



尾崎 肇「Magic hour」

撮影地：オーストラリア マニラ



山口 弘「遊覧飛行」

撮影地：宮城県柴田郡柴田町



中村正哉「収穫の頃」

撮影地：山口県岩国市高照寺山エリア



中村正哉「アドバイス」

撮影地：山口県岩国市高照寺山エリア



熱気球イベント「空を見上げて」で ハンググライダーVRを実施

8月19日(土)・20日(日)、東京臨海広域防災公園にて、東日本大震災復興支援熱気球イベント第35回「空を見上げて」in 東京(主催:特定非営利活動法人熱気球運営機構)が開催されました。一般財団法人日本航空協会の航空スポーツ教室としての開催もあり、JHFも東京都ハング・パラグライディング連盟の協賛、協力を受けてハンググライダーVRを実施。2日間で55名の方が体験しました。

イベントでは、熱気球係留体験、模型飛行機教室、機体展示等もあり、航空スポーツに触れてもらえる、笑顔が溢れる2日間でした。



熱気球が浮かぶ空の下でハンググライダーVR体験。

上級タンデム技能証検定は JHFウェブサイトから

今年度の上級タンデム技能証検定会を引き続き実施しています。和歌山県紀の川フライトパークでの検定会は、12月12日(火)・13日(水)の開催に決まりました。また、静岡県スカイ朝霧でも12月中旬、1月中旬、2月の開催を予定しています。日程が確定し次第、JHFウェブサイトでご案内しますので、チェックをお願いします。受検の申し込みについてもウェブサイトでご覧いただけます。

上級タンデム技能証は、タンデムフライトの安全性と確実性を向上させることを目的として2019年に新設したものです。その検定会は2日間の日程で実施しており、学科講習と学科試験、実技検定を行っています。実技検定は、ソロフライト検定で合格した受検者だけがタンデムフライト検定に進みます。

検定員は3名以上を配置することで合格基準を一定に保っています。また、検定員のうち少なくとも1名は「同一の企業グループやスクールに属さない

者」とすることで、公平性を担保しています。

受検者は事前に健康診断書と使用機材一覧を提出し、基準を満たさない場合は受検できませんので、ご注意ください。

教員技能証をめざす方のための 集合学科検定を実施

ハンググライディング/パラグライディングの教員をめざす方のための教員学科検定は、重要事項の講義と学科試験、教習実技試験を実施するため、2021年度まで2日間の日程で行ってきました。

2022年度からは、事前にZOOMによるオンライン講義を済ませ、会場に集合しての検定は1日とし、学科試験と教習実技試験を実施しています。今年度は下記の実施を予定していますので、教員をめざす方はぜひご参加ください。

日程:2024年2月下旬

会場:西日本、東日本の2箇所

事前オンライン講義:時期調整中

なお、教員検定の申し込みには正会員の推薦書が必要です。詳しくはJHF事務局までお問い合わせください。

教員・助教員更新講習会で 新しい知識を

JHF教員・助教員技能証の有効期間は3年間です。教員・助教員技能証の更新には、更新講習会の受講が義務づけられています。

教員・助教員更新講習会の目的は、「教員・助教員に対して新しい制度及び知識を伝達するとともに、教員・助教員がお手本としての飛行技術を有すること、及び知識の伝達ができることを確認すること」。指導をする立場だからこそ、常に新しい知識を身に付けていくことが大切です。

更新講習会の日程や開催地はJHFウェブサイトです。更新時期に近い教員・助教員の方は、早めにご確認ください。

なお、JHF技能証規程によって、救急救命の講習受講も義務づけられています。各自で講習を受け普通救急救命講習修了書(過去3年以内)を取得してください。

アキュラシー世界選手権 ブルガリアで開催

10月20日から28日まで、ブルガリアのソボトで「第12回FAIパラグライディングアキュラシー世界選手権」が開催され、日本を代表して、平野竜二選手、古田岳史選手、橋本みさ紀選手、岡芳樹選手(チームリーダー兼任)の4名が参加しました。報告は次号に掲載。JHFウェブサイト、パラグライディング競技委員会のページもご覧ください。

アキュラシー日本選手権は 今年も朝霧高原で

12月2日(土)・3日(日)の2日間、静岡県朝霧高原エリアにおいて「2023パラグライディングアキュラシー日本選手権 in ASAGIRI」を開催します。

FAIカテゴリー2大会のため、CIVLイベントページからのエントリーも必要です。詳しくはJHFウェブサイト、パラグライディング競技委員会のページでご確認ください。



昨年のアキュラシー日本選手権より。

計 報

峰岸正弘氏が7月17日に逝去されました。

峰岸氏は1980年代からハンググライディング競技で頭角を現し、日本を代表するパイロットとして世界選手権に6回出場、日本選手権の獲得は3回と日本ハング界をリードする活躍をされました。

また国内でパラグライディングが始まって間もなくフライトを始め、世界記録に挑戦、1992年に南アフリカ共和国で直線距離263.2km、目的地直線距離182.5kmの記録を樹立しました。獲得高度4548mと、当時の世界記録を上回る飛行にも成功。その挑戦を続ける姿勢は、多くの人々の記憶に残るものです。

ご冥福をお祈り申し上げます。

教員・助教員、教員検定員の役割

自由な飛行の環境を守り未来につなぐために

スクールで練習を始めたときからお世話になってきたインストラクター。いつかは自分も教員の技能証を取って指導にあたりたい、ハンググライディング・パラグライディングの人口をもっと増やしたい。そう思っている方もいるでしょう。なかには、教員が一番上級の技能証だから取得したいと勘違いしている方もいるかもしれませんが、教員・助教員は身近な存在ながら、その技能証については、あまり知られていないようです。教員を目指したいと考えている方、以下、簡単な説明ですが参考にしてください。

JHFの技能証制度は、皆が安全にフライトを楽しむ、その環境を維持し次代につなぐためにあります。

技能証制度を含むJHFの事業は、定款第2章（目的及び事業）に定められています。定款第4条に「(4)ハンググライディング及びパラグライディングに係るスポーツ指導者の養成、認定及び指導。」とあるように、指導者を育て、認定し、指導することは、JHFの重要な事業のひとつです。

指導者とは、JHF技能証規程の実技科目表、学科科目表に基づく検定に合格した、ハンググライディング／パラグライディングの教員または助教員を指します。

助教員技能証（3年ごとの更新が必要）

ハンググライディング／パラグライディングA級、B級、ノービスパイロット証、パイロット証の各技能証課程の実技教育及び学科教育を行うほか、それぞれのパイロット技能証を有する者に、実技教育の助手の依頼や、飛行の監督の依頼を行うことができます。また、各技能証課程の教育を受けた者の経歴を証明することができる技能を持つことを示します。

クロスカントリー証、タンデム証、上級タンデム証、補助動力証を有する助教員は、その各技能証課程において上記と同等のことを行うことができます。

教員技能証（3年ごとの更新が必要）

ハンググライディング／パラグライディングA級、B級、ノービスパイロット証、パイロット証の各技能証課程の実技教育及び学科教育を行うほか、それぞれのパイロット技能証を有する者に、実技教育の助手の依頼や、飛行の監督の依頼を行うことができます。また、各技能証課程の教育を受けた者の経歴を証明することができるほか、各技能証の学科検定試験、実技検定試験を実施し、合否を判定できる技能を持つことを示します。

クロスカントリー証、タンデム証、上級タンデム証、補助動力証を有する教員は、その各技能証課程において上記と同等のことを行うことができます。

教員を検定するのは、教員検定員で

す。2023年10月現在、北海道から沖縄まで全国で15名の教員検定員が活躍しています。

教員検定員

教員検定員制度は、全国各地においてハンググライディング／パラグライディングの健全な発展と安全確保、技能レベルの標準化などを目的としています。

豊富な指導経験を持ち各都道府県連盟から推薦を受けた教員が、教員検定員研修検定会に参加。研修を修了し、実技検定で合格した者が教員検定員として認められます。

教員検定員は教員の検定にあたるほか、各地のリーダーとして3年間活躍します。

また、万一事故が発生した場合はその調査を行うこともあります。

15人目の教員検定員が沖縄で始動

前号で紹介した14名の教員検定員に、沖縄県の木村陽二さんが加わりました。2023年度から2025年度まで、教員検定員としてさまざまな活動を担います。



【パラグライディング】
木村 陽二
沖縄県ハング・
パラグライディング連盟

前回に続き検定員を務めさせていただきます。

沖縄でマリンスポーツ各種、ダイビングのインストラクターとして20年程勤務の後、パラグライダーを始めて20数年になります。今もパラの飛べない強風シーズンには、カイトサーフィン、ウイングフォイルのレッスン、ビクター受け入れ等を行っています。

教員検定員としてJHFの活動に携わり、検定、全国の指導レベルの均一化、安全啓蒙、講習会等を通じ、またマリンスポーツのインストラクターとして培った経験をもとに、フライヤーの皆さんのより楽しく、より安全なフライトのお役に立てるよう努力します。

全国の教員検定員

都道府県連	氏名	担当
北海道	田代 茂樹	PG
北海道	西泉 隆広	PG
山形県	金井 誠	PG
群馬県	伊尾木 浩二	PG
栃木県	殿塚 裕紀	PG
茨城県	板垣 直樹	PG/HG
茨城県	福田 武史	PG
茨城県	北野 正浩	HG
静岡県	目黒 敏	PG
静岡県	加賀山 務	PG
石川県	山口 隆文	PG
和歌山県	外村 仁克	HG
鳥取県	片岡 義夫	PG
鳥取県	松村 貴博	HG
沖縄県	木村 陽二	PG

PG：パラグライディング
HG：ハンググライディング

秋のパラグライダーフライトは…

JHF安全性委員会 大井 義継

秋は、パラグライダーフライトに楽しさと美しい景色を提供する一方で、気象条件や季節的な変化によるリスクが増える季節です。

例えば、夏の太平洋高気圧が弱まり大陸からの冷たい高気圧の勢力が増すと秋雨前線、秋が深まると低気圧が日本の東海上で急激に発達し、西高東低の気圧配置になり木枯らしという強い北風が吹いたりします。

安全なフライトを確保するために、以下のポイントに留意しましょう。

1 気象条件の確認

秋は気象が急激に変化する季節です。フライトの前に、信頼性のある気象予報を確認しましょう。

フライトエリアだけでなく周辺の風速、風向、気圧、降水確率、雲の状態などの情報を入手し、天候の変化に対応するための計画を立てましょう。

2 風の影響

秋の風は不安定で、風向や風速が急に変わる場合があります。風の影響を理解し、適切に対処できるようにするために、風のパターンを学びましょう。

強風や突風が予測される場合、飛行を中止することが賢明です。

3 適切な装備

秋の気温は低くなり、風も冷たく感じることがあります。適切な装備を選択して寒さから身を守りましょう。防寒性の高いウェア、手袋、ブーツを着用し、寒冷な高度でのフライトに備えましょう。保温性のあるインナーウェアも忘れずに着用しましょう。

4 サーマルの特性

秋は気象条件が不安定で、サーマルの特性が変動しやすい季節です。サーマルの動きを理解し、予測不能な上昇や下降に対処できるようになりましょう。急上昇や急降下から身を守るために、適切な技術を磨きましょう。

5 疲労と体調管理

長時間のフライトや寒冷な気温は疲労を引き起こす可能性があります。体調管理に十分な注意を払い、適切な休憩を取ることが安全飛行のために不可欠です。疲労した状態でのフライトは判断力を低下させ、リスクを高めるこ

とがあるので、前日の夜更かしは厳禁です。

6 無線通信の確保

他のパイロットとのコミュニケーションは安全飛行の要です。無線機を携帯し、緊急時に他のパイロットと連絡を取れるようにしましょう。意志疎通を円滑に行うことは、危機管理と安全確保に不可欠です、バッテリーなどの出力低下も考えられるため、予備バッテリーも忘れずに。

7 プレフライトチェック

パラグライダーフライトを安全に楽しむためには、フライト前のプレフライトチェックが不可欠です。パラグライダー本体、ハーネス、レスキューパラシュート、ヘルメットなど、すべての装備を徹底的に点検しましょう。特にレスキューパラシュートは必要時の緊急対応に備えて正常に作動することを確認します。

8 フライト計画の立案

安全なフライトを実現するために、フライト計画を事前に立案しましょう。

2023年度前半の事故報告（前号掲載の報告に追加）

	日付	都道府県	機材	内容	EN	年齢	経験	性別	練習生	怪我の状況
26	7月17日	茨城県	PG+PG	サーマル旋回中、他機が移動してきて接触。レスパラ開傘	A	64		女	B	無傷
				右から来た機体翼端と自身の右手と腕に接触。その後LD	A	65		男	B	無傷
27	7月17日	フランス	PG	切り立った岩盤近くで旋回。目測誤り接触。スピンの疑い	C	67	30～	男		腹部骨折・死亡
28	7月26日	兵庫県	PG	LDアプローチ、同時進入によりパニックになり電柱に衝突	A	51		女	NP	脛を打撲
29	7月29日	茨城県	PG	LDアプローチ中、10m程度で失速。直前に潰れの疑い	B	66	26	男		胸部骨折・重症
30	7月30日	愛知県	HG	海岸沿いでフライト。フォローで顔面から着地		47	27	男		頸椎骨折・重症
31	7月30日	兵庫県	PG	強いサーマルの影響で翼が潰れレスキュー開傘、電線に		47	20	男		無傷
32	8月2日	静岡県	HG	LDファイナル時の高度が低く、持ち直しできず着地		55		男		肩から手を骨折
33	8月6日	石川県	PG	LD付近50-80mで潰れによりスピン後、ダイブ団子状で落下	CCC	36	10	男		腰椎骨折・重症
34	8月13日	大分県	PG	LD地点の目測を誤りショート。電柱に引っ掛かりぶら下がる	A	43	1	女	NP	腰部筋肉断裂
35	9月10日	北海道	MPG	イベント時のT/O時に転倒し怪我。ドクターヘリで搬送		54	10	男		詳細不明

出発点から到着地点までの経路、予想される気象条件、予定された飛行時間、着陸地点の場所などを明確に定めます。

また、飛行経路を他のパイロットと共有することも考慮しましょう。

9 緊急対応計画

パラグライダーフライト中に予期せぬ状況に遭遇する可能性があるため、緊急対応計画を立てておきましょう。レスキューパラシュートの使用方法や、非常時の無線通信手順を理解し、対処法をトレーニングしておきます。

また、適切な応急処置キットや医療用品を携帯して、ケガや病気に備えましょう。

10 チームでのフライト

できるだけチームで行動することをお勧めします。

他のパイロットと連携し、情報を共有しましょう。チームメンバーとのコミュニケーションを通じて、危険を早期に察知し、助け合うことができます。

11 飛行の制限

自身のスキルレベルや経験に合わせて、飛行の制限を設定しましょう。無理に高度な技術や飛行条件に挑むことは避け、自分の安全を最優先に考えましょう。また、飛行中に体調が悪化した場合や急変した気象条件に遭遇した場合は、計画を変更または中止しましょう。

12 フライト日のスケジュール

フライト日のスケジュールを適切に計画しましょう。早朝または遅い午後には飛行を行うことで、風が比較的穏やかで気象条件が安定している時間帯を選びましょう。風速と風向の変化を把握し、最適な時間帯を選択します。

13 ローカルルールの順守

他のエリアにはローカルルールや独自の規制が存在することがあります。地元のパイロットやクラブメンバーから情報を収集し、地域の規則に従いましょう。地域のコミュニティと協力することで、安全なフライトを確保できます。

14 フライト日の状況の監視

フライト日には、気象条件や地域の状況を継続的に監視しましょう。天候が急変する可能性があるため、飛行中にも無線機などを利用し情報を更新し続けることが重要です。気象ラジオやスマートフォンのアプリ、ネット情報を活用して、最新の情報を入手しましょう。

15 経験の共有と学び

最後に、経験を共有し、学び続けることを忘れないでください。他のパイロットとの情報交換やフライト後の振り返りは、次のフライトに役立つ貴重な教訓となります。

安全なパラグライダーフライトを継続的に楽しむために、経験から得た知識を積極的に活用しましょう。

これらのポイントを守り、秋のパラグライダーフライトを安全に楽しみましょう。安全第一の心構えで、美しい自然を存分に満喫しましょう。(ハンググライダーフライトにもぜひ参考にしてください。)

注 意 喚 起

新潟県寺泊でのフライトについて

新潟県長岡市寺泊周辺でモーターパラグライダーによる低空飛行と騒音、飛行時間帯（早朝からの飛行）についての苦情がJHF事務局に寄せられました。フライトされる方は、ルールを守り、一般の方へ不安や迷惑をかけないように、十分な配慮をお願いします。

人が多い場所・有料道路等に注意

海岸、海浜公園には特に人が多く集まります。上記の連絡があった新潟県に限らず、一般の人が多くいる海岸、また有料道路の上空等はモーターパラグライダーだけでなく、ハンググライダー、パラグライダーについても苦情があります。迷惑がかからないように、安全に楽しいフライトをお願いします。

安全マージンを確保して事故を防ぐ

たいへん残念なことに、大きな事故

が続いています。

気象条件や体調などに小さな不安があるとき「これくらいは大丈夫」とテイクオフする前に、よく考えてください。空中で予期しないことが起きても絶対に大丈夫ですか？ 余裕を持って対処できますか？

少しでも不安材料があったらフライト

をしない。それは臆病でも格好悪いことでもありません。

自分自身、そして他者の安全のためにも、無理をせず、しっかりと安全マージンを確保してフライトするように心掛けましょう。

空を飛ぶ楽しさを事故によって奪われないよう細心の注意をしましょう。

「もったいない事故」を繰り返さないために

もし、あなたが事故を起こしてしまったら、あやうく大事故になるようなミスをしてしまったら、どうしますか？

自分の失敗を皆に伝えるのは、嬉しいことではありません。ベテランパイロットであれば尚更、気が進まないことでしょう。しかし、あなたの経験が皆の安全につながるとしたら、どうですか？

JHF安全性委員会では、事故再発防止のために、事故やインシデント情報を収集しています。当事者、エリア・スクールの管理者など関係者の方は、事故報告をしてください。目撃しただけだから報告までは……という方は、JHFウェブサイト、会員ページトップの画面左上、『事故情報収集ページ』からお知らせください。匿名で結構です、ぜひご協力を！

優勝は三鷹茂原460m／大記録69682mバードマンハウス

報告：山本 貢

去る7月29日、30日の2日間、琵琶湖の夏の恒例行事となる、鳥人間大会が開催されました。今回で45回目となる同大会、人力プロペラ部門で素晴らしい記録が作られました。

また今年はJHF代表の審査員として、新しく竹中唯太氏が加わりました。氏は大阪大学在学中より鳥人間大会に参加。パイロットとしての訓練のために、ハンググライダーを体験しましたが、そのままハンググライダーも趣味となってしまった人物です。



写真は左より、かつて無尾翼機で名を馳せた糸谷氏（元ハングフライヤー）、滑空機部門の最有力候補の大木氏（今大会の優勝者）機体審査総括の佐々木氏、そして竹中氏です。

滑空機部門は、好条件のなか競技が

進んでいきましたが、意外と記録が伸びてくれません。

優勝候補の日大生産工学部も303mと、400mに届かずじまい…。この後、ご本人たちが「お笑い担当」、飛女の会の土取樹氏が383mを記録。これにはご本人も涙して喜んでいました。

最後は最有力候補、チーム三鷹茂原の大木氏。氏は的確な判断で風を読み、記録460mを樹立。新記録には及ばなかったものの、あっさりと優勝を勝ち取りました。

続いて人力プロペラ部門です。条件そのものは悪くはないものの、なかなか好記録が出てきません。かつては優勝候補と言われた日大理工も、今回トラブルで墜落。そんななか、片ペラの個性的な機体で毎回参加している大阪工大が8566mを樹立。

今回、最も完成度の高い機体で参加した、バードマンハウス伊賀の渡邊氏のフライトが始まりましたが、余裕の表情でどんどん先へと進んでいきます。この機体は、今までにないくらい翼面積が小さく、機体重量も20kgを切っており、他の機体と比べると、正

直次元の違いを感じてしまうものを持っています。しかし、そんな完成度の高い機体も、風に翻弄されてしまい、思うように進めません。どうにか3回のターンを終えて、プラットフォームへと帰ってきたとき、時間がかかったことにより水が足りなくなり、脱水症状に陥ってしまい、ゴールの300m圏にわずか18m足りず着水。70kmのコースをコンプリート出来なかったため、記録は69682mとなってしまいます。

この後、東北大Windnautsが奮闘するも、バードマンハウスの記録には及ばず、42837m。しかしこれは、今までの学生記録を越えていました。

結果、人力プロペラ部門の優勝は、渡邊氏となりました。

氏は長年鳥人間に奮闘しており、今回をもって引退するとのこと。残念ではありますが、鳥人間を続けるには、大変なモチベーションとお金が必要ですから、氏の決断は致し方ないと思います。しかし、今回優勝した機体。この機体は、最も完成度が高い人力機として、何らかの方法で保存を考えた方が良く、個人的には思いました。

JHFからのお知らせ

■2024年JHFカレンダーを頒布

第10回フォトコンテストの入選作品と、応募作品から選んだ季節感のある写真で、2024年のJHFカレンダーを作り頒布します。仕上がりサイズはA4。これを上下に開き各月A3サイズの縦型吊り下げタイプです。

ご希望の方はJHF登録スクールでご購入いただくか、JHF事務局にお申し



込みください。頒布価格は1冊500円（送料込）です。頒布の準備ができ次第、詳細をJHFウェブサイトでお知らせします。

■JHF会費のd払いができます

JHF会費のウォレット請求書払いで利用可能な決済アプリ（LINEPay、auPAY、PayB）に追加して、この7月からd払いが可能になりました。

ウォレット請求書払いとは、払込票に記載されたバーコードを、ウォレットサービスのスマートフォンアプリで読み取ることでお支払いを可能にするものです。

会員登録更新案内の払込票に記載されたバーコードを読み取って決済してください。決済が完了しましたら、事務局でデータ確認ができ次第、ご登録の住所宛に会員証をお送りします。

決済から1週間が過ぎてもお手元に会員証が届かない場合は、お手数をおかけしますが、JHF事務局までお問い合わせください。

■JHF会費が1年会費のみになります

JHF会員会費規約が6月13日JHF総会で承認されました。これまで1年会費、3年会費での登録でしたが、2024年1月1日よりJHFフライヤー会員会費が1年会費のみになります。これによって、事務局業務の効率化も図ります。

2024年1月1日以降に登録更新を迎える会員の方へのご案内は2023年11月開始。どうぞよろしくお願いします。

■JHFインスタ：ショート映像募集

JHF公式Instagramを始めました。

広報活動のひとつとして、パラグライダー、ハンググライダーを知らない

方に興味を持ってもらえるような、気持ちよさそう！飛んでみたい！というショート映像を紹介していきます。

つきましては、会員の皆さまにも、楽しさが伝わる映像のご提供をお願いします。

ハンググライダーまたはパラグライダーでのテイクオフ、フライト、旋回、ランディング等をしている15秒～60秒程度の動画をお願いします。あなたやお仲間の動画をぜひ！ただし一般の人が見て危険に感じるようなものは

NGです。詳細はJHFウェブサイトをご覧ください。



■エリア情報を集めています

ドローン実用化に伴いハンググライダー、パラグライダーのエリアの正確な把握が必須になっています。

エリア管理を担当されている皆様、エリア名、テイクオフ、ランディング所在地、GPSコード情報をお知らせく

ださい。現在把握している情報はJHFウェブサイトに掲載しています（左下のQRコード）。ウェブフォームからの入力もできますので右下のQRコードをご覧ください。



会員の皆様からの、ご存知のエリアが掲載されていない等の情報もお待ちしております。ご協力をお願いします。

学連ニュース

今回は学生大会について報告させていただきます。

まず、paraglider student cupが8月末に開催されました。4年ぶりの開催ということで事前準備等大変だったと思いますが、実行委員長をはじめスタッフの方々、そしてご協力いただいた上越市委員会の皆様、本当にありがとうございました。3日間とも好条件で、たくさん飛ぶことが出来ました。

合宿クラスはターゲット、sportクラスはデュレーション、openクラスはタスクを組んでのゴールレースを行いました。

sportクラスは事前に自分でセットタイムを決め、定めた時間に近いフライトをした人が勝つという面白い競技内容でした。安全性もありつつ、気象条件によってセットタイムを判断するといった、フライト技術と知識を多く使う良い競技になったのではないかと思います。

競技フライト終了後はフリーフライトを楽しんだ人も多く見られました。穏やかなリッジで長時間飛ぶことができ、尾神、最高だ！また行きたい！といった声があがりました。クラス毎の結果は以下です。入賞された方、おめでとうございます。

[open class]

- 1位 能祖 雄大 東京工業大学
- 2位 今泉 在志 山形大学
- 3位 川村龍太郎 東京工業大学

[sport class]

- 1位 浅田 拓郎 東京大学
- 2位 篠崎 大河 山形大学
- 3位 山崎 彩佳 東京工業大学

[合宿class]

- 1位 岩佐 慶太 東京工業大学
- 2位 林 悦司 神戸大学
- 3位 秋葉 大喜 立教大学

続いて、nasa student cupが9月中旬に開催されました。3日間とも毎日天気が良くnasaSは毎年天気が悪いというジンクスを払拭しました。例年8月末に大会を行っていましたが、今年は日程を変更しました。実行委員長の英断を称えたいと思います。2ndクラスはデュレーション、1stクラスはサーキットレース、expertクラスはゴールレース、3クラスとも毎日フライト出来ました。expertクラスでは、角なしの機体が圧倒的有利かと思いきや、なんと角ありダブル機の方が機体係数によって逆転優勝！ギリギリの熱い戦いを見せてくれました。

同年代のフライヤーと切磋琢磨することは、モチベーションの向上にもつながるうえ、フライトも上手になれるということを実感しました。気象条件が良く初めて雲底につけた人や自己最高高度を達成できた方も見られました。他エリアから来た方からは、来てよかった！足尾は上がる！といった声もあがりました。イレギュラーも

ありましたが、無事開催出来て良かったです。インストラクター、スタッフ、協賛いただいた方々等、皆様のおかげで、良い大会になりました。本当にありがとうございました。クラス毎の結果は以下になりました。入賞された方、おめでとうございます。

[expertクラス]

- 1位 田中 秀 気象大学校
- 2位 本田 旭 大阪大学
- 3位 今村 奏海 東京大学

[2ndクラス]

- 1位 豊島 愛祐 鳥取大学
- 2位 竹之下 龍 東京大学
- 3位 柴田 龍 鳥取大学

[1stクラス]

- 1位 前田 望 金沢大学
- 2位 平塚 大樹 東京大学
- 3位 坂上 碩崇 東京大学

最後に、残念ながら砂丘合宿は悪天候のため中止となってしまいました。今年はまだまだイベントが残っています。10月・11月にはハング、パラそれぞれ新人戦が、そして春頃にはまた学生大会も開催を予定しています。全国の学生フライヤーがそういった場で仲良くなれると嬉しいです。



尾神岳でのparaglider student cup。日本海を背景に。



nasa student cup。天候に恵まれ競技を楽しめた。

11日20時間20分34秒で完走。大きな目標が叶った。

2023年6月11日-23日 オーストリア、ドイツ、スイス、フランス、イタリア 報告：江本 悠滋

2週間程の下見をしながらスタートの地へやってきた。オーストリアのキッツビュエル、世界屈指の山岳リゾートはアルペンスキーの世界で育った僕の憧れの場所だ。幼少期の夢だったスキー選手としては来ることができなかった夢の場所でもある。そんな場所が、47歳の今の自分の夢の舞台“X-ALPS”のスタート地点となった。

今回で開催20周年、10回目を迎えたRedbull X-ALPS。初回の2003年は参加者19名、ターンポイントは2箇所（上空通過あり）のサインボード無しから始まった。回を重ねる毎にタスクの距離も増え、地上のサインボードの数も増えた。これは必ず下界に降りないといけないので、次へ進むには登山から始まることになる。前回の2021年大会からは地中海のモナコへの象徴的なゴールが無くなり、モンブランを折り返すルート設定となった。

タスク距離の変化と参加者のレベル向上によりスピードレースへ進化したRedbull X-ALPSは、大会のルールも進化し続けている。休憩時間の指定やエアースペースの厳守、雲中飛行や雨の中での飛行禁止など、影響力のある大会という観点もあり厳しくなっている。

今年はオーストリア、ドイツ、スイス、フランス、イタリアを周りまたオーストリアへ戻る約1220kmのコース。ターンポイント（TP）は15箇所。その内サインボードは10箇所。そして2箇所は指定された肖像物との自撮り、残りの3箇所はヨーロッパを代表する山がシリンダーとなった。

新しいルールは、エアースペースの厳守、ドイツ国内ではオフィシャルエリア以外からのテイクオフ禁止、21時から翌朝6時までに最低7時間の休養

の取得（携帯アプリで管理）。トップのゴールから48時間で大会終了というルールが無くなり、大会期間内でのゴールが認められることになった。

Redbull X-ALPSは2015年大会から『プロローグ』と呼ばれるワンデイレースから始まる。今年のプロローグは天候の影響で60kmタスク。僕はフィナलगライドのタイミングが悪く、ゴール手前3kmで降り、トップと40分差でゴールした。

チーム江本

今回はワーゲンのキャンピングカー2台、サポートメンバー5名で大会に挑む。これだけの長いレースの経験が無いので、何がどう必要かは想像によるしかなかった。誰が自分と山を登り、誰が上で待機し、どの車がどこを目指すか、実際にレースが始まらないと、他選手の動向や戦略もチームの動きも見えては来ない。

課題は、いかに怪我や身体の不具合を出さずに歩き続け、良い飛びをするか。そしてどんな時も気持ちで負けないと決めていた。チームメンバーが同じ目標を持って全員が最善の動きを想定しないといけない。想像のレースでもある。

天気の変化や他選手の動きを把握し戦術を組む。これがX-ALPS完走のための大きなポイントだと思う。戦術を組む一つ目の鍵となったのは、一緒にハイク&フライの大会に多く参加し彼自身もこの大会への参加を夢見ているシャモニーの若い友人、レミー。二つ目の鍵は如何に体が疲労のリカバリーをできるか。1日17時間を2週間近く行うためには身体の回復力を引き出すことが大切だ。そのため日本から料理人の引地さんが参加、日本人の体にあった栄養バランスを考え毎日の献立を作ってくれた。三つ目の鍵は身体のケア。僕の最初の前十字靱帯の再建手術からケアをしてきている理学療法士の近藤さんも日本から同行してもらった。またX-ピレネーに来てくれたクロエ。昨年までフランスのパラグライダーの指導検定と一緒に受けていた

同じ歳のベン。まさに日本とフランス、インとアウトの自分らしいチームで挑む。

レース初日

街の真ん中に設置された大きな青いRedbullのアーチ。最先端のパラグライダーを背負った選手達。この見たことのある光景の中に自分が立っているのが夢の中にいるかのような感覚だった。

大会の雰囲気は呑まれないよう、あえて最前列にスタート位置を確保。カウントダウンでスタート。まず街をジョギングペースで1周の後、いよいよレースが始まる。

最初のTP1であるキッツビュエルのスキー場トップのテイクオフへ900m上がる。TP1手前で自国の国旗を渡され、TP1の指定の位置に旗を差し込む。そして最初のサインボードにサインをする。予定通り20位程度で着く。水を飲み、着替えを終えると直ぐに飛び立った。曇天を懸念して誰も前に出ようとしないうるスタート。選手30人でのガーグルもここだけの景色だろう。

序盤は上手く進めたがチロル州からザルツブルク州に入るポイントで、低い尾根上の強い向かい風の中、サーマルを捉えきれない。仕方なく前の尾根を狙い、10分ほど前の集団を追うが、気持ちの焦りか上手く飛べない。

ゴールのあるシェラムゼの谷を渡った所で尾根伝いに進むが、上手く峠を越えられず、諦めて山の中腹に降り降り返す。こんな序盤でグループから離れてしまった。グループで飛ぶことが圧倒的に有利なパラグライダーで1人飛びはかなり厳しい。この後何度もショートフライトとハイクを続けて前に進むしかない耐える初日となった。何とか夜にはTP2のワーグラインに辿り着くことができた。

大会を振り返ると、初日の早い段階でグループから離れてしまった、ここが一番大きな失敗だった。

2日目

大きな谷渡りのリスクを考え、フラ



江本悠滋
EMOTO Yuzuki

登山家。国際山岳ガイド（UIAGM）／フランス国家資格スキー指導員／フランス国家資格パラグライダーインストラクター

ンスのロリとスペインのジョルディを
追いかけるようにホーホケーニ山麓へ
足で進む選択をした。

トップグループは15人ぐらい。いい
ペースで飛んでいる。一方後続の僕達
はバラバラ。雲底が少しずつ上がるの
を確認しながら、この少しだけ遅れた
タイミングの方がコンディションが良
いと自分に言い聞かせ、TP3、ドイツ
のチェンテールを目指す。

良い飛びができた。上手く風も読め
る。こんな日があるのがレース。どん
どん前に進め、かなり高い位置から
ファイナルグライドするが、強風で
TP3の数百メートル手前に降りてしま
う。

TP3から近くへのテイクオフへ。15
時を回りサーマルも残り数時間だが、
何よりバレーウィンドが強くなってい
る。自由にテイクオフできないめんど
くさいドイツ側を飛ぶことを強られる。
さらに後半は携帯電話の不調で地
図等のアプリが一切使えなくなるハブ
ニング。ウェルヒェン湖まで進んだも
の次のテイクオフまでは40kmある。

当日の行動終了はその場その場で決
めていた。サポートチームはGPSで到
着を把握してくれるので、合流すると
テントの設置も終わり、僕は携帯アプ
リをレストモードに変更してシャワー
を浴び、近藤さんのケアを受け、引地
さんが作ってくれる美味しい夕食を食
べ、翌日の戦略会議をレミーとする。
こんな夢のような日々を送っていた。

3日目

早くドイツから出たい。自由にテ
イクオフできるオーストリアへ向けて長
いロードからスタートした。40km進
みオーストリアに入る。ウェッター
シュタインの南側から飛び立ちTP4の
レルモスへ。直接TPに降りたのはこ
のTP4が初めてだった。

サインボードにサインをすると、斜
面を15分程登り再度飛び立つ。約80m
の高度差しかないが、上手く当てると
コンバージェンスに入り、あっという
間に上がる。

ここから次へは比較的簡単なのだ
が、目の前に雨のカーテンが突然現れ
た。前進を続けるが雨がどんどん強
くなりこの進路で飛び続けることは不
可能となる。慌てて谷を渡るが、谷風
に押しつぶされる。尾根の風上に出るこ

とができずランディング。

谷風に乗ってスピードが上げられる
時間帯に空に居ないのは良くない。目
の前の山を1000m程登りテイクオフ。
最後の最後まで粘って前に進み、翌日
テイクオフできる場所の麓にランディ
ングしたので、そこで1日を終える。

実はこの3日目の夜は後方の選手達
には大きな意味がある。翌朝7時の時
点での最下位の選手が失格になるの
だ。2日毎に1人、大会終了までに5
名の最下位の選手が失格となる。

4日目

最下位のチェコのプロハースカが最
初の失格者となった。

登山道の入口で寝た僕は1000mの
ハイクからスタート。以前マウラーが
使ったテイクオフを目指す、さらに
200m程登って確実にサーマルを狙
える安全策をとる。目指すは最初の山
のシリンダーであるピーツ・ブイン
(TP5)。氷河帯の山に進んで行くが、
こういう氷や岩の景色の方が僕は好き
だ。飛びもダイナミックになれるし、
正確に判断できることが多いと改め
て感じた。

前方に行くオーストリアのエリとア
メリカのローガンと合流しフィッシュ
(TP6)へ飛んで来ることができた。
この日の飛びも満足だし順位も21位ま
で巻き返した。

フィッシュは以前スイス選手権で来
たので、空の感覚もあるしテイクオフ
への道も登ったことがある。キャンプ
場も知っているから気持ちのものが凄
く楽だった。この夜はキャンプ場で暖
かいシャワーをたらふく浴び、コンセ
ントから電源も取れるし、レストラン
でピザパーティーと、多少は快適な夜を
チーム皆で過ごせた。

5日目

サーマルタイムを目指して少しゆっ
くり出発。エリとローガン、3人で飛
び立った。思いの外サーマルトップが
弱く低い。このままローヌの谷を彼ら
と進むのもありだが、少しでも高くを
飛びたいと北側へ進路を変えピーチェ
ホルンを目指した。しかし風の裏側に
居る僕は3100mの稜線が越えられず、
手前の氷河にランディング。徒歩で稜
線を越え反対側へ飛び立った。

後は2700mのロッチェンの峠さえ越



装備一式。厳しい状況を共に乗り越えた。



ピアフェラータ山頂でRedbullメディアチームと。

えれば次のTPのフルティゲンは目の
前だが、この峠へ向かう途中のエア
スペースをまさかの違反（自分も全
気がついていない）。これで2日後に
12時間のペナルティーを受けること
になった。

次のTP8はニーゼンの山頂。エア
スペースギリギリ、通称パトリックの
庭（前に20m、左右100m程）のテ
イクオフから山頂を目指す山の中腹に
降り、最後は歩いてニーゼンのピーク
へ上がり、ボードにサインをした。

次は自分のよく知るフランスへ向け
て飛び立つ。今夜の目標はシャモニー
だ。しかし目標に届かず、歩いてシャ
モニー谷の入口、バロウシンまで辿り
着く。23時の制限ギリギリまで行動。

6日目

今日はフランスのロリが失格になっ
てしまった。X-Alpsは2回目の参加、
飛ぶ能力も高い選手だが、上手く行か
ないと簡単に最下位になってしまう。
精神的にも追い込まれるのがX-ALPS
なのだろう。

飛び慣れたシャモニーからスター
ト、モンブランを北側から回り込む
TP9に続き、プチセントバーナード峠
(TP10)へ。順調に進む。ここからは
アルプスの南側、イタリアへ入って行

く。強いサーマルと強い風が予想される。目指すはモンテローザ（TP11）。標高3200mまで近付かないとこのシリンドーに入れない。サーマルトップ4700m以上のコンディションの中、雲の下をフルアクセルで進む。モンテローザ山頂は雲に隠れ、明らかに山の反対側は雪が降っている。自分の周りにも雪が舞い始める頃になんとかシリンドーに入った。

そこから北イタリアのピエモンを目指す。サーマルが無くなると同時にランディング。いつものように夜まで歩き、ドルオーニョの郊外まで辿り着くことができた。

そしてこの時に大会運営側から正式にペナルティー12時間が告げられた。

翌日4時から12時間、16時までこの場所から動くことができない。

7日目

トップのマウラーはこの日の内にゴールするのが確実となった。僕はペナルティーによってサーマルタイムに飛べないので、翌日のお昼に良い場所から飛べるようひたすら歩く（走る）作戦を立て、60km以上ロードを走った。前に行くローガンとカナダのジェームスから離れないよう距離を詰めた。

この2人と一緒に同じ場所から飛ぶが、コモ湖を渡ったところで自分だけ降りてしまう。飛べる場所へ上がり直すには標高差2000m。

気持ち折れそうになり、大会中初めて「もしかするとゴールできないのでは」と考えた。

8日目

中国のソンが3人目の失格者となった。そしてスロベニアのオブラックは違反行為の連続で失格に。

明らかに天気が変わり始めていた。上空は北風ベース、無風の良いコンディションから一転、南風に。低い雲底と湿った空気、上空には強い風。これからは難しくなることが想像できた。

この夜までにトップ集団に続きセカンドグループまでの18選手がゴールをした。前日一緒にいた選手は既にドロミテ最初のTPであるチマ・トサ（TP12）へ到着し、自分とは80kmもの差がついてしまっていた。

9日目

低い雲底だがコンバージェンスラインを使って進む。なんとかTP12のチマ・トサの小屋にランディング。小屋を入れて自撮り、またテイクオフ。峠手前に降り、足で峠を越し、またテイクオフ。

モウヴェーノの湖を渡りスキー場を越えたいが谷風が山裏にまで入って来ていて反対側へ行けず、スキー場の麓にランディング。

そこからは罰ゲームのように1000m弱を登り返して夕方最後に風が落ちることを期待した。しかし夜までに風がおさまることはなく、歩いての下山は諦め、翌日早朝のチャンスを狙ってこの場所で寝ることに。チームのレミーとクロエがテントや食料を持って上がって来てくれた。

10日目

ニュージーランドのキングが失格に。

テントから外を見てもガスは濃く風は強い。フライトが許される6時を待つが一向におさまる気配がない。足で降り始め、飛べる場所を見つけて40度以上ある急斜面から飛び立った。

フライトダウン。また長いロードを歩く。そして登り、飛ぶ。

ドロミテの中心を目指して飛ぶが、焦りと疲労から自分でもどこへ進まないといけないかよくわからなくなっていた。ミスも増えた。携帯の調子も悪くなる。地図が開かなくなる。全てが上手く行かなくなる。ゴールへ行くにはもうミスは許されないのだがミスを繰り返す。ミスによって時間を失い、体力も失う。それでもチームの皆に心の背中を押されながら前へ前へと進んでいくことだけに集中していた。

11日目

なんとかTP13のピアフェラータに辿り着く。何を考えてどう飛んでいたかの記憶が余り残っていない。ピアフェラーの3ザイネンを登り、下山するとまた直ぐに飛び立つ。目指すはすぐ麓のTP14、セクステン。TPを通過しそのまま夜まで歩いて前へ進む。

12日目

最後に失格となったのはオーストラリアのリッチだった。

ゴールまで直線距離で74km。通常のコンディションなら全く問題ない距離だが、天気が変わってしまった今、かなり遠く感じる。最短距離の山の中からのルートは前日にジェームスが全然飛べず進めていなかった。さらに上空の風が強い予報から、ルートを一旦東へ思いっきり向けてひたすら歩き、午後のサーマルタイムに一気に進める作戦を僕たちはとった。

2日前にエリがテイクオフした場所から飛び立つが、しばらくすると雷雨



レース初日、キッツビュエルのスキー場からテイクオフ。ゴールまで様々な困難が待っていた。



TP3のCHIEMGAU ACHENTALにて。



長いロードもチームのサポートで歩き通せた。



小さく見えたフロートに、遂にゴール！



TEAM JAPAN EMOTO

に捕まり、中腹に降り雨雲がずれるのを待った。ゴールするには、もうこうしている時間は1分たりとも無い。太陽も低くなりつつあるし周りには大きな雷雲も発達していた。少し歩きテイクオフ禁止ゾーンを避けて飛び立つ。

谷風を上手く使うしかないのは分かっているが、3000m前後の稜線を越えなければゴールへ導く谷へは行くことができない。できる限り進み、谷奥の標高2000m程の場所に18時30分にランディング。飛びながら地図アプリで確認した稜線は2700m。標高差700mの距離は5km弱、21時までにランディングするルールなので、遅くても20時30分にはテイクオフできていないといけない。時間のプレッシャーの他にも後ろから近付いてくるドス黒い雨雲。この雨にやられるか、飛ぶ前にタイムリミットを迎えてしまうか、または裏に飛ぶことができてゴールを決められるか。

チームのメンバーとも携帯でも無線機でも連絡が取れない。だが今はゴールだけを信じて進みたい。反対側へ行くことだけを考えた。

30分も歩くと足元は雪の斜面に。運動靴にショートパンツ姿で登る。シャツは汗でずぶ濡れで、風があると寒くも感じる。「ここで雨雲に捕まったらどうなっちゃうんだろう。仮に飛べないから完走を諦めるとしても、この3000m近くの稜線で雨の中停滞はできるのか？ それとも足でなら降りられるぐらいの雨で済むのだろうか…」と考えながら進む。しばらくすると地図に無い避難小屋を見つけた。最悪あそこに逃げ込もう。

19時50分。稜線に着く。岩だらけの稜線から少し下がると雪渓がある。そこまで道もないガレ場を慎重に下がり、雪と岩の間にグライダーを引っ掛けるようにして広げた。風は無く、横の稜線の裏でローターになっていることが予想できた。そうしているうちに

雨雲も稜線を越えようとしていた。ポツポツと小粒の雨を感じる。

今しかない。

フロントでテイクオフする。グライダーも上手く立ち上がった。さあ最後のゴールを可能にするグライドだ！

ローターを避けるように飛ぶが、やはり風は怪しい。怪しいと分かっているから何が起きても対応できる自信もあった。2回グライダーが頭上から姿を消し、しばらくして怪しい空域を抜けると、追い風を背負ってゴールへ向かう谷へ飛ぶ。周りは薄暗く怪しい空だが自分の周りだけは雨も降っていない。途中、怪しい上昇帯がいくつもあがるがそれらは拾わず上げないように、低くなりすぎないようにゴール前のエアスペースギリギリまで飛んだ。20時30分にランディング。地面に足が着いたと同時に翌日のゴールが確信にと変わり色々な感情が浮かび上がる。

ゴールフロートの浮いた湖へフライトダウンする前のTP15まで残り14kmの登り1350m。最終日の11時30分がレース終了だから、残された時間は7時間30分。何があってもゴールできる。

21時に行動を終了。チーム全員が完走を確信し、笑顔が絶えない夜だった。

最終日

朝4時。土砂降りの雨の中スタート。この日もレミーと一緒に歩くと言う。カッパを着て、傘もさして歩きだした。雨の中を歩くのは好きではないが、この時はなぜかX-ALPSらしいレース後半を思い出しながら歩くのが楽しかった。明るくなると雨も止んだ。レミーと色々な話をしたことは覚えていないが何を話していたかは全く記憶がない。

TP15のシュミッテンが見えてくる。Redbullの旗にスポンサーの車など遠くからよく見えた。最後のサインボードは雨を拭かないとサインができないほどだった。最後のサインをし、ここ

まで一緒に戦ってくれたチームメンバー全員と抱き合い喜びあった時は目頭が熱くなった。

本当にチームの皆が僕をここまで連れて来てくれた。僕は毎日4～5時間は睡眠に当てることができた。しかし他のメンバーは僕が起きる前から準備を始め、僕が寝落ちてからも翌日の準備をしてくれた。長いロード歩きも皆が交代しながら一緒に歩いてくれた。途中でチームを離れてもらったベンンの代わりにシャモニーのあずみちゃんも急遽参加してくれた。

今回の僕の挑戦のためにクラウドファンディングを通じて応援してくださった多くの方々の気持ちに少しは恩返しできたんじゃないかと嬉しかった。

そして雨の降るなか飛び立った。静かな空だった。時折吹く怪しい風でグライダーが動くが余り気にもならない。朝の湖面は波も無い。まだ人も出て来ていない静かなザラムシーの街を上から眺め、そして周りの雨のカーテンを見ながら、湖に浮いた青いフロートを見つめた。

ものすごく小さく見えた。

13日間かけてこの青いちっぽけなフロートを目指して進んで来たんだという不思議な感覚と、憧れたこの舞台でゴールができることが何か現実離れしていた。

僕のひとつの大きな目標が叶った。

パラグライダーを始めた時に目標にした、Redbull X-ALPSへの日本代表としての出場。この目標を超える完走までできた。本当にこのスポーツに出会えたこと、そしてこうして応援してもらえることに感謝しかありません。

応援ありがとうございます！

■この報告はダイジェスト版です。JHFウェブサイトFlyer's Voice特別版で全文をご覧ください。

第23回FAIハンググライディングClass 1世界選手権

第14回FAIハンググライディング女子世界選手権

第9回FAIハンググライディングClass 5世界選手権

他の追隨を許さずイタリア・オーストリアが勝利

2023年8月6日-19日 北マケドニア クルシェボ 報告: HANG_AID2023 内田秀子

条件に恵まれ8-9タスクが成立

コロナで中止や延期が相次いでいた世界選手権が、北マケドニアにおいて開催された。Class 1は4年ぶりの世界選手権。Class 5は5年ぶり。そして女子世界選手権は9年ぶり。参加人数はClass 1が97名、Class 5が27名、そして女子7名。

世界選手権は、各国代表パイロット6名（Class 5は5名）からなるチームで国別総合及び個人総合の順位を競う。国別総合はタスク毎に各国上位3名（Class 5は2名）の得点を計上しその合計点、個人総合は成立タスクすべての合計点の結果となる。11日間の競技期間中、Class 1は8タスク、Class 5は9タスクが成立した。

コンディションは連日サーマルトップ2000～2500m（対地高度。地表は海抜600m）、リフトもコアをとらえると平均3～5m/sの上昇率。低い高度でははっきりしないサーマルも、少しず

らただけで強いリフトに変わる等、トリッキーな場面もあり苦戦した選手もいたが、全競技においてゴール者が出る条件に恵まれた大会となった。

大会初日はフォローを背負ったジグザグ南下タスク80キロ、その後はコンディションの好転も加わり、徐々に拡大され、最終日前日はついにクルシェボの盆地を駆け巡る最大の175km（Class 5）まで広がった。タスク距離合計は、Class 1が938.5km、Class 5が1187.2km。

日本はClass 5と女子で銅メダル

Class 1の日本人の成績は、ブレ大会が開催されず今回がクルシェボ初フライトという選手も多く、久しぶりの世界選手権ということもあり、1日ゴールできないと次の日も引きずってしまうような悪い流れができてしまった。デイリーだけをみると日本人トップの成績はTASK 8の鈴木由路選手の

17位であった。国別総合は個人でも金銀をとったイタリアが圧巻の7連覇となった。

Class 5は、板垣選手がTASK 5とTASK 8では2位でゴールするなど高順位をキープする場面が多々見られたが、何日かの振るわない飛びもあった。それでも6位の入賞はさすが。初出場の岩崎選手が9日中8日ゴールという粘りの飛びをして10位入賞。同じく初出場の山口選手・櫻井選手もデイリーでそれぞれ5位、6位を取るなど実力の高さがうかがえた。前回の世界選手権に続き国別3位を獲得。

女子は、Class 1総合28位のSasha、同じく39位のCorinnaが圧巻の飛びを見せ女子の金・銀メダル。野尻選手も151.7kmのタスクで総合30位のゴールを決めるという高順位を叩き出し女子銅メダルとなった。

ハンググライディングの世界選手権は、すべてのタスクの成績が加算されるため、1日の失敗で栄光を逃してしまう過酷なレース。心技体すべてがそろって初めて世界チャンピオンになる



開会のセレモニーに日本チームが集合。今回は三つの選手権を戦う大所帯だ。



木陰でパイロットブリーフィング。



テイクオフ役員の指示にしたがって飛び立つ。



組み立てたフライトコースを検証しながらテイクオフを待つ。



ゴールした選手とサポートメンバー。明日もゴールだ！



Class 5の板垣直樹選手。さすがのフライトで個人6位入賞。

のだと、改めて痛感させられた戦いだった。

先頭集団に食らいつき10位入賞

日本選手最多の8ゴールを決め約50時間（選手最長）のフライト、初出場ながらClass 5 個人総合10位入賞の岩崎選手からコメントをもらった。

「先輩方より、先頭集団から離されたら降るぞ！とアドバイスをもらっており、多少低くとも集団についていき、集団の中でゴールまでの道筋をたてました。また目は良いほうなので、回している機体であれば10キロ先ぐらいまでは視認できるので、リフトのありかを探る指標としました。最終日は日本が国別総合3位に食い込めるか僅差だったこともあり、スタート前から情報収集、飛んでいる最中でも地上班の富岡さんから位置情報をもらって万全を尽くしました。閉会式では優勝したClass 1のイタリア、Class 5のオーストリアの国歌が流れ、次回は日本も！との思いを強くしました。最後に総合団体で日本がまくったスペインチームですが、閉会式にてこれまで両者で切磋琢磨した9タスクの思いを板垣チームリーダーと振り返って名残を惜しんでいたことが印象的でした。」

最後に、日本のパイロットの皆様、JHF、ハンググライディング競技委員

会、HANG_AID2023、チームリーダー浅井将平さん、回収及びサポートとして同行していた外村仁克さん、富岡好次郎さん、慶子さん、ナオコさん、皆様の応援・協力のおかげで世界選手権を戦い抜くことができました。応援ありがとうございました！

日々のレースの詳しい内容や写真は、「HANG_AID」で検索、HPのリンクからフェイスブックやツイッター（X）をご確認ください。

[Class 1 個人総合]

- 1位 Alex Ploner イタリア
- 2位 Marco Laurenzi イタリア
- 3位 Alvaro Figueiredo Sandoli ブラジル
- 42位 鈴木 由路
- 49位 小高 史郎
- 52位 氏家 良彦
- 54位 砂間 隆司
- 67位 名草 慧
- 70位 鈴木 博司
- 80位 野尻 知里

[Class 1 国別総合]

- 1位 イタリア
- 2位 イギリス
- 3位 ブラジル
- 11位 日本

[Class 5 個人総合]

- 1位 Anton Raumaufer オーストリア
- 2位 Dirk Ripkens ドイツ
- 3位 Andreas Sand オーストリア
- 6位 板垣 直樹
- 10位 岩崎 正芳
- 14位 櫻井 大朗
- 18位 山口 裕之
- 23位 松田 隆至

[Class 5 国別総合]

- 1位 オーストリア
- 2位 ドイツ
- 3位 日本

[女子総合]

- 1位 Sasha Serebrennikova
オーストリア
- 2位 Corinna Schwiengershausen
ドイツ
- 3位 野尻 知里



女子3位、野尻知里選手のゴールを共に喜ぶ。



左から3人目がClass 5 で10位入賞の岩崎正芳選手。



Class 1 国別 1 位は常勝イタリアチーム。



Class 5 国別 1 位はオーストリア。日本が3位に。



女子世界選手権トップ3。野尻選手は銅メダル。

JHFからのお願い

■お名前・ご住所が変わったら 早めにお知らせください

発行のたびに宛先不明で戻ってくるJHFレポートが少なくありません。

JHFレポートには、フライヤー会員の皆さまにぜひ読んでいただきたい情報を掲載しています。氏名や住所に変更があったら、お手数ですが早めにメールかFAXで事務局にお知らせください。

[お知らせいただきたいこと]

- ・フライヤー会員番号
- ・お名前（氏名変更の場合は新旧名）
- ・新しいご住所
- ・連絡先電話番号
- ・メールアドレス

もしフライトのお仲間に転居された方や、お名前が変わった方がいたなら「JHFに変更の連絡をした？」と声を

かけていただけると、たいへん助かります。

■各種申し込みやお知らせ お問い合わせはJHF事務局へ

公益社団法人

日本ハング・パラグライディング連盟

〒114-0015 東京都北区中里1-1-301

TEL.03-5834-2889 FAX.03-5834-2089

E-mail:info@jhf.hangpara.or.jp

https://jhf.hangpara.or.jp

事務局業務の効率化のため、ご連絡はできるだけメールでお願いします。回答が通常より遅れることがありますが、順次対応をいたしますのでご理解ください。

*このJHFレポートには、賛助会員からのお知らせを、神奈川県在住の方には県連盟からのお知らせも同封しています。

■紙ではなくPCやスマホで JHFレポートを読みたい方に

JHFレポートは、毎号、紙に印刷したものをフライヤー会員の皆さま全員にお送りしていますが、紙ではなく、PCやスマホで読みたいという方が最近増えているようです。

JHFレポートはJHFウェブサイトでもご覧いただけます。印刷版が不要の方は、お手数ですが、JHF事務局までメールでご連絡くださるようお願いいたします。

JHFレポート243号

発行日：2023年（令和5年）10月30日

発行：公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟（JHF）

編集：JHF事務局

印刷：株式会社アイセレクト

本レポートの一部あるいは全部を無断で複写複製することはご遠慮ください。

すべての スポーツに エールを

スポーツくじの収益は、日本のスポーツを育てるために使われています。



くじを買うはエールになる



※19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。運営・販売：独立行政法人日本スポーツ振興センター

上空利用可能デジタル無線機 使用のお勧め

2024年（令和6年）11月30日にアナログ式簡易無線機の運用が終了することに備えて、JHFではハンググライダーやパラグライダーのフライト中に使用する無線機として「簡易無線登録局」対応のデジタル無線機の使用を推奨しています。

上空利用5チャンネルを搭載、デジタル方式の音声なので、混信もすくなくクリアで聞き取りやすくなっています。現在の対応機種はSTANDARD製のVX-291S、VXD450S、VXD1S、ICOM製のIC-DPR30、IC-DPR4、KENWOOD製のTPZ-D510です。

JHF賛助会員（JHFウェブサイトにはバナーを掲載）からも購入することができます。

なお、JHFではSTANDARD製デジタル無線機を15台保有し、フライヤー会員に貸し出しをしています。ご希望の方はJHFウェブサイトの「JHFのご案内」をご覧のうえお申し込みください。

すでにデジタル無線機をお持ちの方は、無線機の登録手続きを済ませ利用料を納めているか、ご確認ください。登録をしないまま無線機を運用すると、不法無線局として処罰の対象になります（1年以下の懲役または100万円以下の罰金）。お忘れのないようお願いします。